

## 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

### 2025年度 アート・コミュニケーション事業に関するお知らせ

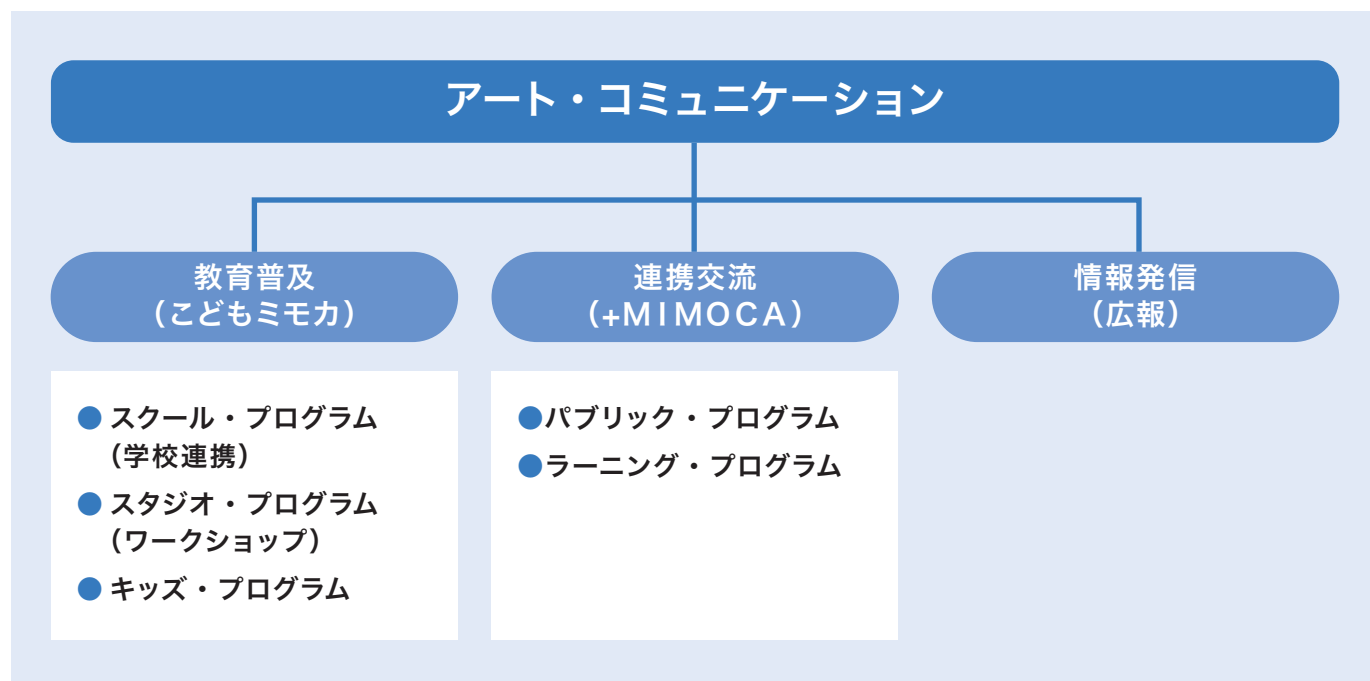


2024年度実施事業の様子

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA) では、芸術の場において個々の感性を育み、新たな交流を生み出し、豊かな文化を創り出すことを目的にアート・コミュニケーション事業（教育普及・連携交流・広報）を展開しています。2025年度も教育普及や地域との連携交流に根差した多様なプログラムを行いますので、ぜひご注目ください。当館では2025年度から初の取り組みとなる**丸亀市内全小学3年生招待プロジェクト「カムカム・ミモカ」**を丸亀市教育委員会と協働で実施します。また、丸亀では22年ぶりの開催となる**きむらとしろうじんじんの「野点」**と、市民が自身の妄想を野点とともに路上に持ち出すことに挑戦する「妄想屋台」を2026年に開催することを目標に今年度より動き始めます。さらに、幅広い年齢層に楽しんでもらうために当館開館以来継続的に実施しているワークショップも引き続き開催します。プレス関係者の皆さまにはぜひご周知賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## — アート・コミュニケーション事業

猪熊弦一郎が大切にしていた子どもへのアート教育を軸として、教育普及事業や連携交流事業を行っています。本事業は芸術の場において、個々の感性を育み、新たな交流を生み出し、豊かな文化を創り出すことを目的に事業を展開しています。子どものためのアート教育において、当館開館以来30年間、ワークショップなどを通して、美術を身近に感じてもらうための取り組みを継続的に実施しています。



## —— 教育普及(こどもミモカ)

### スクール・プログラム(学校連携)

NEW

### 丸亀市内全小学3年生招待プロジェクト「カムカム・ミモカ」

#### 市内約1,000人の小学3年生をMIMOCAに招待！

当館は「子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし育む」という猪熊弦一郎の意思を受け継ぎ、子どもたちが芸術に触れ、体験的に学ぶ場としてスクール・プログラムを実施しています。

**カムカム・ミモカ**とは市内の全小学3年生を丸亀市猪熊弦一郎現代美術館へ招待する、美術館と丸亀市教育委員会との協働で行う初のプロジェクトとなります。一般的に、9歳以降の小学校高学年の時期は自身のことを客観的にとらえられるようになる一方で、発達の個人差も顕著になる(いわゆる「9歳の壁\*」)といわれています。本プロジェクトはこの時期を迎える前に、同じ教室で学ぶ級友と一緒に作品や空間についての会話を通して、自己と他者の違いを受け入れ、自己肯定感を高めるきっかけになることを目指しています。

そして、地元の公共施設のひとつである美術館を訪れ非日常な空間を体験するとともに、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の作品や言葉、現代美術と出会うことで子どもたちの豊かな感性を育むことを目的として本プロジェクトを実施します。

\* 出典：子どもの徳育に関する懇談会「3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」(文部科学省)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1283165.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1283165.htm)



学校来館の様子

#### 実施日程

※取材にお越しいただく際は事前に広報担当までご連絡をお願いします。

2025 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026 1月	2月	3月
		前期：5校				中期：8校				後期：3校	

## スタジオ・プログラム(ワークショップ)

### 【ワークショップ】

未就学児から小学生、中学生、高校生まで、幅広い対象に向けて「つくる・表現する」や「かかわる・感じる」をテーマとしたワークショップを当館開館以来継続的に実施しています。

### 5月3日(土・祝)「のびのび! 青空ワークショップ」

#### まちの人びとが行き交う屋外広場で楽しいものづくり体験

当館入口正面の広場・ゲートプラザで気軽にものづくりを体験できる3種類のワークショップを開催します。ゲートプラザという開放的な場所で初夏の風に吹かれながら、子どもから大人まで楽しめる内容になっています。

※参加費はワークショップごとに異なります。

#### ①石に描いてみよう

マジックを使って石に直接色を塗ったり絵を描いたりします。絵を描くことが苦手な方や未就学児がチャレンジしやすいワークショップです。

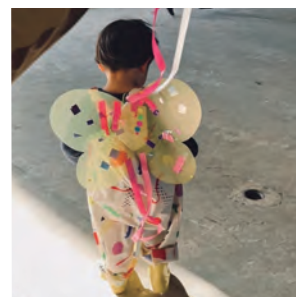


#### ②はねをつくって、○○になる!

アーティスト、芸術士®として活躍しているミズカ氏を講師に招き、動物や昆虫・乗り物など参加者がイメージする「はね」をつくるワークショップ。完成した作品は実際に背中に着けることができます。

講師：ミズカ

香川県丸亀市出身。大人となった人の心にいる”ちいさなこども”をテーマにしたオリジナルキャラクター「ぼうや」を制作し、展開している。香川大学医学部生サークル”瀬戸内地域医療Lab”と入院しているこどもたちとホスピタルアートを通じて関わるなど、こどもたちとのアート活動にも力を入れている。県内では芸術士®としても活動中。



#### ③木っ端で何つくる?

建具や家具を制作している楠木木工所を講師に招き、木っ端として捨ててしまう木材を使ってものづくりを行う木工ワークショップ。職人から直接道具の使い方を教えてもらいながら自由に制作できます。

講師：有限会社楠木木工所

大正14年に楠木木工所として香川県丸亀市にて創業。木製建具木製家具を、時代のニーズに合わせ、お客様の要望に応じて製作、取付しています。



そのほか、夏にはオープスタジオ、秋にはキッズウィークに合わせたワークショップなどを実施予定です。

## キッズ・プログラム

### 【親子でMIMOCAの日】

#### 家族と気軽に楽しめる二日間

2020年より子どもたちが芸術に触れ、家族でMIMOCAを楽しんでいただく機会を増やすことを目的として展覧会ごとに一回、週末に「親子でMIMOCAの日」を開催しています。

当館は高校生以下または18歳未満の子どもの観覧料を常に無料としていますが、「親子でMIMOCAの日」は**子ども1名につき同伴者2名まで観覧無料**となる取り組みです。

※同伴者の観覧無料については、親に限らずきょうだいや親戚、友人などにも適用されます。

#### 2025年度の親子でMIMOCAの日スケジュール

- ・企画展「猪熊弦一郎博覧会」会期中 6月7日、8日(土・日)
- ・企画展「大竹伸朗展 網膜」会期中 10月18日、19日(土・日)
- ・企画展「ジャネット・カーディフ：40声のモテット」会期中 1月24日、25日(土・日)

### 【ミモカキッズパスポート】

#### 「美術館に行くこと」が楽しみになるツール

子どもたちが自主的に美術館を訪れ、様々な作品に触れる機会を多く持つことで、芸術に親しむ心が育まれることを願い、1999年度からミモカキッズパスポートを製作し、高校生以下を対象に配布しています。

展覧会を見たり、ワークショップに参加するなどして、スタンプを集めると、ミモカオリジナル缶バッジやエコバックなどをプレゼントしています。

毎年発行されるミモカキッズパスポートは2023年度から現状の仕様にリニューアルしました。集めて並べるとゲートプラザの壁画《創造の広場》が完成します。

裏面には、自分の似顔絵を描くスペースがあり、毎年ミモカキッズパスポートの色合いや表紙のデザインが変わっていくように、自身の似顔絵の変化も楽しむことができます。



ゲートプラザ壁画 撮影：増田好郎

### 【子ども向け広報物】

#### MIMOCAから子どもたちへのお手紙

これまではワークショップの情報をメインにお知らせしてきた子ども向け広報物。2025年度からは、当館の活動について広く知ってもらう内容へとリニューアルし、地域の子どもたちに読んでもらえる媒体『こどもミモカレター』として発行します。

## —— 長期プロジェクト(こどもミモカ、+MIMOCA)

### きむらとしろうじんじん 野点(のだて)と丸亀妄想屋台群

#### 市民とつくりあげる2か年のプロジェクト

きむらとしろうじんじんの「野点」と一緒に、市民が妄想屋台(自分にとっての魅力やその予感を屋台にしたもの)を路上に出して  
みることをゴールとして、約2年をかけて実施します。

きむらとしろうじんじんの野点は、参加者が絵付けしたお茶碗を  
その場で「楽焼(らくやき)」という方法で焼き上げ、焼き立て  
のお茶碗でお茶を飲む陶芸お抹茶屋台です。野点は2001年  
と2003年に商店街や当館ゲートプラザで実施しており、本プ  
ロジェクトは22年ぶりの丸亀での開催となります。

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/公益財団法人ミモカ美術振興財団

共催：丸亀市市民交流活動センター マルタス

#### ●野点とは？

参加者がその場で絵付けをしたお茶碗を楽焼という方法で焼き上げ、自作のお茶碗で「その土地の・その日・そのときの風景の中  
で」お茶を楽しんでもらう……陶芸お抹茶屋台ー移動式カフェー旅回りのお茶会です。じんじんは素焼きのお茶碗と陶芸窯・お茶  
道具一式を積んだリヤカーをひいて、路上や公園、空き地、駐車場など、その土地のさまざまな場所に現れます。

#### ●妄想屋台とは？

「自分にとっての魅力の予感」を路上や空き地に屋台として持ち出してみたものの総称。風呂敷1枚でできることから巨大なもの  
まで、かたちは人それぞれ。

#### 【説明会&おさんぽ会①】 日時：2025年5月10日(土)、11日(日) 各日10時～17時

野点や妄想屋台と一緒に取り組んでくれるプロジェクトメンバーを募るため、本プロジェクトや野点について説明会を実施  
します。また野点や妄想屋台を展開する場所を見つけるため、丸亀市内をお散歩しながら魅力的な風景を探します。



#### 【野点デモンストレーション】 実施日：2025年11月23日(日)

2026年の野点+妄想屋台を展開するにあたって、プロジェクトメンバーが、路上に持ち出された「魅力」のひとつで  
あるじんじんの野点を実際に体験する機会として実施します。



#### 【説明会&妄想屋台ワークショップ&おさんぽ会②】 実施日：2026年2月ごろ

プロジェクトメンバーによる本格的な妄想屋台制作に向けてのワークショップを開催します。妄想屋台をみんなで相談する時  
間、プランを絵に描いてみる時間、そして発表するプレゼン大会を実施。引き続き丸亀の魅力的な風景を探すお散歩も続けな  
がら、2026度の本格開催を迎えます。



#### 【野点+妄想屋台】 実施日：2026年秋

おさんぽ会で見つけた場所にプロジェクトメンバーが考えた妄想屋台を野点とともに展開します。来場者は妄想屋台出展者そ  
れぞれにとっての魅力やその予感を見たり聞いたりしながら、その日・その場所にしかない風景や出会いを楽しみます。



撮影：梅田彩華

## 2025・2026年度 実施スケジュール



### 講師プロフィール

#### きむらとしろうじんじん

1967年新潟県生まれ、京都府在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科で陶芸を学ぶ。1995年から移動式陶芸お抹茶屋台「野点」を全国各地で開催。「もっともチャームングな」服装で参加者をもてなし、路地・空き地・公園などに一期一会の風景や交流を生み出している。丸亀では2001年と2003年に当館ゲートプラザや商店街などで野点を開催。



## —— 連携交流(+MIMOCA)

### パブリック・プログラム

#### 【MIMOCA'S BIRTHDAY(開館記念日)】

##### 34回目の誕生日、特別な1日をMIMOCAで

当館は1991年11月23日に開館しました。この日を当館の誕生日として、毎年感謝の気持ちを込めて、無料開館をはじめ、さまざまなイベントを実施してきました。2025年度も、1年に1日だけの特別な日をみなさまと過ごすために全館あげて企画を考えます。準備から実施するまでの間で地域の方々とのつながりを深め、美術館と来場者との交流を生み出すことを目指します。



2024年度の開館記念日の様子 撮影：大峯達麻

### ラーニング・プログラム

#### 【キュレーター・トーク】

##### キュレーターが展覧会の見どころを解説！

企画展会期中、毎月第1日曜日に展覧会担当キュレーターによる「キュレーター・トーク」を実施しています。展示作品やテーマについて解説し、来館者が作品への理解を深められるようサポートする取り組みです。2025年度も引き続き実施します。

#### 【博物館実習】

##### 大学生、大学院生を対象にした取組

毎年、博物館学芸員課程を受講している大学生や大学院生を対象に公募し、学芸員資格取得に必要な技能の習得と学びを通じて、専門的な知識とスキルを磨く機会を提供しています。2025年度も引き続き実施します。



募集要項はこちらから

<https://www.mimoca.jp/news/14800>

## —— 情報発信(広報)

#### 【WEBサイト】

##### 約10年振りにWEBサイトをフルリニューアル！

2025年4月12日に当館のWEBサイトを全面的にリニューアルしました。

猪熊弦一郎が遺した「シンプル・フレッシュ・シャープ」という言葉をコンセプトに、情報の分かりやすさ、デザインの統一感などを重視したWEBサイトとなっています。ぜひご利用ください。

<https://www.mimoca.jp>

広報用画像  
について

WEBサイトやQRコードよりご申請ください。  
<https://www.mimoca.jp/press/>



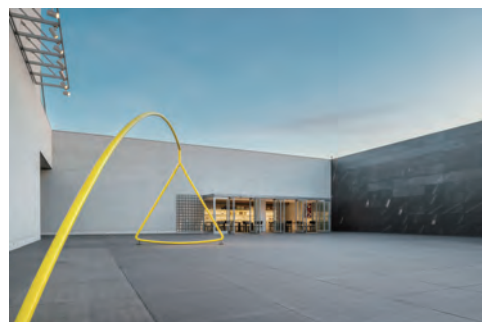


# 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (MIMOCA) について

## 【1991年開館、30年を超える活動】

1991年11月23日、JR丸亀駅前に開館。同時代の新しい表現を積極的に紹介する「現代美術館」を望んだ猪熊弦一郎の考えを受け継ぎ、猪熊作品を中心とした常設展、現代美術にフォーカスした企画展、子どものためのワークショップなど、多彩なプログラムを展開しています。

さらに、当館は猪熊弦一郎の遺した絵画やドローイングなど作品約2万点を所蔵しています。猪熊が「対話彫刻」と名付けた小さな作品群、猪熊夫妻が各地で収集しその生活を彩っていたコレクションなどの多数の資料とともに、常設展や企画展を通して、猪熊の活動を深く、広く紹介しています。



撮影：増田好郎

## 【現代美術に特化した美術館として】

現代美術を中心とし、企画展として国内外のアーティストの活動を展覧。これまでにヤン・ファープル、マリナー・アブラモヴィッチ、マルレーネ・デュマス、エルネスト・ネット、杉本博司、塩田千春、ホンマタカシ、石内都らの個展を開催する一方、金氏徹平、小金沢健人、志賀理江子、中園孔二ら気鋭のアーティストの紹介にも積極的に取り組み、近年では若手作家を対象とした公募展「MIMOCA EYE」を立ち上げました。また、同時代のクリエイティブな表現にも着目し、ファッションやファニチャーといったデザイン、現代建築にも拡張しています。

## 【谷口吉生の設計による美しい建築】

設計は、数々の美術館建築を手がけ、高い評価を受ける谷口吉生。猪熊との対話によって、アーティストと建築家の理念が細部に至るまで具現化されています。

猪熊弦一郎の巨大な壁画《創造の広場》が眼を引く伸びやかなファサードは、駅前広場と建築をゆるやかに結びつけ、館内に入ると自然光をふんだんに取り込んだ、開放的な空間が広がります。2階には対照的なプロポーションをもつ2つの展示室があり、3階の天井高約7mの豊かなスケール感をもつ展示室へと続きます。

さらに、正面左側の大階段はアートへのさまざまなアプローチを可能にするパブリックな空間へと接続しています。2階のアートセンターには、ライブラリー、ホール、スタジオが備わり、3階最奥部にあるカスケードブラザとカフェも来館者に心地よい時間を提供します。

## 【アクセス】 JR丸亀駅南口より徒歩1分

